

「マールガリ・ジャパン 2026」

～南インドの聖なる歌声～

トリシュール・ブラザーズ公演

【公演の狙い】

音楽の三大要素は「メロディー」、「リズム」、「ハーモニー」と一般に言われるが、果たしてすべての音楽にそれが当てはまるのだろうか？実はそれは西洋の音楽の考え方であって、この地球上のすべての音楽に当てはまる普遍の要素ではない。アジアの大国「インド」の古典音楽は、西洋古典音楽同様に古い歴史を持ち独自の発展を遂げており、「ハーモニー」の概念を発展させてこなかった。その分、単旋律ではありながらも、複雑な音の動きや装飾音、そして膨大なメロディー体系「ラーガ Raga」を、その音楽の根幹としてはぐくんできた。ともすれば、西洋偏重になってしまいがちな日本の状況ではあるが、同じアジアにも西洋古典音楽に匹敵するほどの理論を持ち、聴衆に愛されているカルナータカ音楽を日本に紹介

し、多様性に満ちた世界を寛容なる視点で見つめるきっかけとなる機会を提供する。

また時間と場所が許すならば、インド人ミュージシャンと聴衆の直接交流の機会の創出も目指す。公演と併せてカルナータカ音楽のボーカル、カルナータカ音楽の打楽器に共通するリズム言葉コナツコルなど、初心者でも参加できる体験型ワークショップを行うことにより聴衆の音楽的知見・体験の拡大と国際交流の機会提供を目指す。それが難しい場合は公演後のサイン会などでミュージシャンと直接対面・会話ができる場を設け草の根の国際交流に寄与することを目指す。

【参考情報】

<カルナータカ音楽 Carnatic Music>

南インドの古典音楽。もとは個人が自身の祈り・ヒンドゥー教の神々への献身を自ら歌にして歌った曲が「南インドのクラシック」として現代にいたるまで歌い継がれている。そういった人々は「ヴァゲヤッカラ（楽聖）」と呼ばれ、彼らの残した楽曲は現代のカルナータカ音楽公演の重要なレパートリーとなっている。カルナータ

カ音楽の精神的源流はユネスコ無形文化遺産にも登録されているバラモン教・ヒンドゥー教の聖典「ヴェーダ」の詠唱にあるとされる。メロディー体系「ラーガ Raga」とリズム体系「ターラ Tala」の二つの独自の概念を根幹にした、ヒンドゥー教の宗教音楽ではあるが、高度な理論と技術をとめない、芸術音楽としても聴かれ楽しまれている。その理知的かつ科学的な音楽性はジャズ・ギタリストのジョン・マクラフリン（英印合同 Indo-Jazz Fusion グループ「Shkati」の結成など）を魅了。またグラミー賞受賞者ジェイコブ・コリアーもカルナータカ音楽の素養を持つ歌手ヴァリジャシュリーと共演するなど現在も多くの先鋭的なミュージシャンをインスパイアし続けている。

【出演者プロフィール】

トリシュール・ブラザーズ Trichur Brothers (ボーカル)

兄シュリクリシュナと弟ラームクマールの実の兄弟によるボーカルデュオ。幼い頃からムリダンガム奏者である父よりカルナータカ音楽の英才教育を受ける。信仰心と情感に溢れる熱く篤い歌唱と、実の兄弟ならではの息のあったコンビネーションで魅せる。ユニゾン

で歌う既存のボーカルデュオのスタイルをより発展させ、互いにフレーズのやり取りをしながら旋律を紡ぎ、インド古典音楽には本来無い「ハーモニー」を西洋音楽とは異なる味付けで取り入れる独自のスタイルを確立。二人の声が共鳴して響き合う瞬間には極上の音世界が現出する。欧米や東南アジアなど海外公演歴も多数あり、アメリカのティヤーガラージャ・アーラダナー（クリーヴランド）やシドニー・ミュージック・フェスティバルなどの音楽祭にも出演。ケニア・ナイロビでも満員の観客に迎えられてのコンサートを行った。インドの首相ナレンドラ・モディが提唱したガンジス川を浄化する国家プロジェクト「ナマミ・ガンゲ」では、公式テーマソング「ナマミ・ガンゲ（Namami Gange）」を作曲。首相のドバイ訪問時に、5万人を超える聴衆を前にこの曲を披露した。

<参考動画>

<https://youtu.be/LB-g-3WRF4M> （動画冒頭でトリシュール・

ブラザーズが左端のムリダンガム奏者から受け取り額につけているのはヒンドゥー教の神様のポートレイト。信仰心からくる音楽であることを示すシーンです）

<https://www.youtube.com/watch?v=XdFD4Yjqzzk> (ナマミ・

ガンゲ (Namami Gange)



トリシュール・ブラザーズ (左：シュリクリシュナ (兄)、右：ラームモーハン (弟))

アクシャイ・アーナンタパドマナーバン

Akshay Anantapadmanaban (ムリダンガム)

5歳の時にムンバイでムリダンガムを始める。9歳でアメリカに移住し、ガタム奏者で「コナッコルの魔術師」との異名をとるスバシ

ユチャンドラン師に師事。大学卒業後はニューヨークのクーパー・ユニオンで工学修士号を取得するもムリダンガムへの情熱は醒めず、2012年にインドのチェンナイに移住。カルナータカ音楽のブロのムリダンガム奏者としての道を歩み始める。シーンを代表する音楽家との共演だけでなく、古典音楽の枠を超えた「Carnatic 2.0 Reloaded」や「The Thayir Sadam Project」などのフュージョン・グループでも活動。2019年公開された長編映画「His Father's Voice」では、「Weapons of Love」など複数の楽曲でムリダンガムを演奏。2025年にはアメリカ・ネヴァダ州の砂漠にて開催の野外イベント「バーニングマン」にも出演し、世界で最も前衛的なステージにムリダンガムそして南インドのリズムを響かせた。自身の専門であるエンジニア的視点からムリダンガムを改良、ムリダンガム及び南インドのリズムの普及にも尽力するなど多方面に及ぶ興味とそれを支える音楽的才能を持つ新進気鋭の音楽家。

<参考動画>

<https://www.youtube.com/watch?v=XCzRwGDzvZU> (ムリダンガム)



アクシャイ・アーナンタパドマナーバン（ムリダンガム）

スニル・クマール Sunil Kumar（カンジーラ）

幼少の頃から、儀礼にて演奏されるタヴィルという太鼓の奏者である父シェーカルの指導の下、カルナータカ音楽のリズムの基礎とタヴィルの演奏方法を学び始める。その後、カンジーラのV.セルヴァガネーシュにカンジーラを学び、素焼きの壺太鼓ガタムの巨匠ヴィックウ・ヴィナーヤクラームにコナッコルを学ぶ。タミル・ナードゥ州立音楽大学のソロ演奏コンクールで一位を受賞するなど頭角を現わす。2011年、ムンバイで開催された伝説的タブラ奏者ザキー

ル・フセイン主催の音楽祭に師セルヴァガネーシュと共に出演。
2016年にはカルナータカ音楽の楽聖ティヤーガラージャの名を冠した音楽祭に出演、その演奏の様子がインド全土に放送される。現在でもカンジーラ、タヴィルなど複数のパーカッションを演奏しマルチな才能を発揮する若手の有望株。

＜参考動画＞

<https://www.youtube.com/watch?v=a-J3WNtUfx4>



スニル・クマール（カンジーラ）

まちかど倶楽部 / マールガリ・ジャパン 井生明

(090-4482-6549、machikadoclub.info@gmail.com)

HP: akiraio.com

YouTube チャンネル : www.youtube.com/@Akiraji-

machikadoclub